



このままでいいの?!生活援助 ～市内の訪問介護事業所みんなで力を合わせて～

本格的な超高齢社会を迎え買物や掃除・調理等の生活援（家事的支援）を必要とする方が今以上に増える事が見込まれています。要支援認定を受けている方の約9割が家事支援なので、三日程度の講習を受けた地域の元気な高齢ボランティア等に任せればよいと決まり、要支援利用者の訪問・通所介護が介護保険サービスから外されました。そんな事情で新しい事業が各自治体でスタート、新座市よりも一足早くこの事業に移行した近隣の市への勉強会に参加し、情報を集めていましたが全く先が見えず、不安が残りました。

いざ始まってみると講習の受講者は沢山いるのに実際働いてくれる人がおらず、新たな担い手がいない、新たに参入する事業所もない、結果、報酬は下がるのに今までの専門職以外に働く人がいない状態。利用者さんにとってはヘルパーも今までとかわらず、利用料も下がるので大きな混乱はなく良かった…とホッとしましたが、逆に「安心してはいけません！」という危機感もあります。なぜなら今後は要介護1，2まで同じようにする動きが加速していき、そうすると訪問介護は立ち行かなくなります。今はいいけれど、これから要支援や要介護1，2に行くヘルパーはいなくなる…。

他の訪問介護事業所は従業員の確保などできているのかな？報酬が下がったけど事業として持ちこたえられるのかな？と思ったのをきっかけに市内の訪問介護事業所23件中この事業に登録した10事業所の方々に声をかけて交流会を持ちました。9月から4回行い、実情や利用者さんの声、問題点・課題等を皆で話し合いました。10事業所ともこの事業に登録したのは今関わっている要支援の利用者さんを守りたい、介護難民を作ってはいけません、生活援助も立派に介護職の仕事なんだ、そんな思いを持っているからです。市内で同じ仕事をしているのに、横の繋がりが薄かった私たちでしたが、これを行うことで顔の見える関係ができ、更に新座市の訪問介護の質の向上にも繋がるのではないかと考えています。ここで出た話しを今後どのような形で行政に伝えていくか、私たちに何ができるか、今が勝負の時ではないかと思えます。

(ケアサポートえん/西本由美子)

